

< 在籍 保護者 >

今の説明を聞いて思っていたんですけども、ある程度生徒数が減っていくということは私たちも理解しているんですけども、3ページの、なぜ陽明小学校に統合するのか、緑台小学校の方が使いやすいのではないかと私たちの質問に対して、数字のご説明のみになっています。次の4ページも同じように、なぜ緑小でなく陽明小学校に統合する、児童数が多いのに、という、私たちの一番、疑問に思うんですけども、そのところも数字の説明のみで、差はそんなに少ないというので終わって、何の回答にもなってないんじゃないかなというのが素直な気持ちです。

どうして緑台小学校なんですかっていう、総務の方がアンケートを取ってくださって、アンケートにもそういうことを書いていると思うんですね。私たちが一番知りたいところは、数字の羅列で終わって、もう少し具体的な回答が頂きたいです。

あと、4ページ以降小中一貫教育について、申し訳ないですけど、今説明いただいた内容はもうすでにされてると思うんです。小中一貫教育とおっしゃるんでしたら、もう少し具体的な、今の小6でも中学校の体験とか見学とか色々してると思うんです。ほんとにグリーンハイツの将来ですとか、緑台中学校のこの先の事、私たちの子どもが通う小学校のことを、ほんとに真剣に考えて頂いているんでしょうか。なんかこういう、説明になってないと思うんですね。前回の説明の繰り返しだったように感じました。人数が少なくなっていくことは、重々、前回の説明会の時でもわかっています。前回も申し上げましたけれども、私たちは子どもが卒業してもここに住み続けていくので、グリーンハイツ全体のこととか、考えると、統合するとしても、普通は立地条件が良い方を残すのに、子どもたちの多い、広さもそんなに変わらない、なのにどうしてこちらなんですかと、前回も聞いたと思うんです。今日の説明では数字、広さがこうです、人数的にも問題ありませんというやつで終わってしまったので、そこが一番納得できないなと思いました。回答お願いします。どうして緑小なのかというところ、もう少し具体的にお願いします。

次に、意見なんですけれども、緑台小学校以外にも陽明小学校・東谷・多田小学校に行ってもいいですよという、12月末に、手紙を子どもが持って帰ってきてまして、今から各小学校に行っても行きたかったらいいですよというような、配慮して配ったというよりは、今から行きたい人はどんだん的な、手紙を見た時に、違和感を覚えた父兄は多かったと思います。これは、意見です。どうして、緑台小学校なんですかっていうところに具体的な回答をお願いします。

< 在籍・未就学 保護者 >

教育長さんのお話で、この校区は全国的に見て学力が高いというお話があったと思うんですけど、今の制度を、なぜ、変えてまで、小中一貫教育をするのかなと、違和感を覚えました。全国的に見て高いレベルがある教育制度を変えた結果、7ページで課題の方に挙がってますが、市が目指してる、小中一貫性のある、学習要領だと思うんですけど、課題に、小中合同の研修時間が確保できないとか、9年間の系統性に配慮した計画ができないとか、既にやった学校が挙げてるのに、あえて、市の方向性とは違うかな?と思うんですけど、その件について、回答をお願いします。

1点目の、なぜ陽明小学校区なのかということについてでございます。2つの学校がありますので、それぞれの歴史もあることは十分認識しております。その中で、多田グリーンハイツとして、先ほども説明しましたが、新設するのではなく、既存の校舎を使用することから考えていかなければならないという風に考えております。3ページの下施設のところで、比較・検討させていただいております。もちろん現在小学校それぞれで一長一短ありますし、今後の動きについて話し合わなければならないと思っています。で、私も教育委員会、市長部局とも協議した中で、この比較表で言いますと3つありまして、1つは建築年数でございます。どちらも耐震工事をしたと言え、建築年数を考えると、陽明小学校の方が新しいというのが1つあります。

もう1つは、敷地面積でございます。それぞれ敷地、運動場それぞれありますけれども、敷地面積が陽明小学校の方が広いという風に考えております。これは、子どもたちの活動を含めてですけれども、後々、10年、20年、30年と考えていったときに、選択肢が増えやすいのではないかとこのように考えております。

それから3つ目がやはり中学校との距離でございます。緑台中学校の近隣にあるということで、連携・一貫教育をやりやすいということもありますし、ゆくゆく考えていったときに、緑台中学校は非常に、少人数の中学校になるということは予想されることであります。先の話、といっても近い将来かなと思っているので、そうなった時に、緑台中学をどう考えていくのか、ということは大きな視点と考えています。中学も同じように統合していくのか、それとも中学校を残していった小学校と連携した小中一貫教育として残していくのか、また、それとは違う新しい事業が出来るのか分かりませんが、選択肢を考えていくうえで、判断したところでございます。

続きまして、児童数の多さについて、でございます。4ページの上です。確かにご指摘の通り、現在緑台小学校の方が児童数が多いという状況でございます。全体の人数で言いますと、20人前後、1学年でいいますと、4～5名くらいの人数であるということ、それと、自然数を見て頂くと、だんだん両校の差も少なくなっているもので、人数が多い方、少ない方と分けるほどの人数差ではないんじゃないかというふうに考えております。

それから、小中一貫校ということでございますが、小中一貫校は、1つは教育の流れと、現在の子どもの流れなんです。今までの保護者の方、地域の方たちもそうですし、私たちもそうですし、小学校と中学校はすごく習慣が違いました。学級単位と教科単位であるとか、部活があるとかないとか、そういう意見のところというのは初めからあったところがございます。ところが時代が非常に変わってきて、子どもたちの成熟が低年齢化しているということが1つございます。やはり今、全国的にも厳しい状況というか、担当になかなか慣れない子どもたちというのが、小1であったり中1にそれぞれ出てきていると、という現状がございます。そういった中で出来るだけなだらかな接続をしていこう、というような施策が小中一貫のひとつの考え方と思っています。

2点目は学習内容ということで、これも、学習指導要領が改訂される中で、出来るだけきめ細かい学習を進めていくべきだということで、今までの教育課程よりさらにきめ細かく

進めていく必要と考えられています。それともう1つは、大きな流れとして、先ほど教育長からもありましたように、全国的に子どもの数が減ってきている現状があるという中で、「学級数が減ります。」ということは教員数も減ります。教員が出来るだけチームとして存在していく中で、小学校、中学校というくくりだけではなり立たなくなってきた。小中で1つの学校として、教員のチームとして成り立つと、そういう考え方が主流になっていくかというふうに思われます。もちろん、小中一貫教育というのは単に方法ですので、教育が目指すものというのは、その方法については、やはり柔軟に考えていく必要があるのではないかとこのように考えております。小中で教育課程を見直したりとか、それぞれの教員がもっと深く小中の教育課程を見たり、指導方法を学んだり、というようなことであったり、それは例えば生徒指導においてでもそうだし、兵庫県で小学校の高学年に教科担任制が入ってきた、というのも、そういう子どもたちの変化というものも入ってくると考えられます。

このようなところから、小中一貫教育を進めていくことが大切だと考えております。以上でございます。

教育長さんの話で、陽明小も緑小も、当初、1300人ぐらい学習していた話がありましたけど、本当に、小中一貫、緑中残していきますっていう未来創造的なのは、どの学校も、小中全員を受け入れるだけの規模はあるんですね。なので、陽明小に近づけて、緑中に近いからって、陽明小、まあ緑中でも緑小でもいいですけど、小中全部合わせたって収容できるくらいの人数が、過去にはあったと思うんですよ。それはせずに、陽明小と緑中で分けるのはなぜなんですか。

質問がちょっと分かりにくいのでもう一度お願いできますか。

学校規模からして過去に1300人抱えた時代がありますよね。今、陽明小と緑小を足しても400人そこそこしかないですよ。だから、別に両校に飲み込みますっていう説明は分かるんですね。そこで、緑中も人数が減ってて、そんなに人数はいないはずなんです。1000人以上いるわけないんで。となった場合、どの学校も、その小中全部を吸収できる規模があると思います。そう考えた時に、小中一貫教育を距離なくやりたいから陽明小なんです、という説明をするのであれば、既に1校にまとめてしまうという案も、1つの案としてあるんじゃないかと思うんですけど。

何かやる上で、陽明小が距離が近いからといって、緑中は先々になくなってしまおう、今は代々、残すためにも小中一貫をしたいと思ってやっています、というのを、するのであれば、学校を残すために考えるのであれば、オール1校にまとめてしまうっていう案もあると思うんですけど、その案が出ないのは何故なんですか。

ご指摘の通り、そのような流れは挙げられるかなと思います。しかし、1つは小学校と中学校は施設基準が違っていて、施設一体型の小中一貫校を作るときに、例えば施設の仕様で、教室の大きさはそんなに変わらないんですが、トイレであるとかプールであるとか、理科の実験室であるとか、やはり、現在の基準で言うとなかなか難しいところがあるかなと思います。一体化して、小中一貫校というのはあるとは思いますが、今の財政状況で見る

と新設するのは難しい。ただ、文科省の方も、一貫校作るときに、助成をするという動きもありますので、その辺りの動きは、見極めていく必要はあると思います。教育長に替わります。

まちづくりの観点で少し。緑小はですね、今、こちらの方に社会教育のスポーツ施設があり、議論がありますね、確かに、街づくりの中でこちらの方がそれなりの集客とか、住民市民の方から当然大切なものであります。一方で、例えば、今の段階で陽明小学校に統合して、どちらからも、地域の方、陽明小学校を小学校区、小学校と中学校との連携という形でしたときに、教育等の施設ですね、として、一緒にしても500人くらいからスタートします。

という中で、今おっしゃった、小中一貫教育を進める。これは、極端に連携教育を、無限の状況を目指す挑戦なんです。実質は、連携あつての一貫教育です。例えば、一緒に行って、すきな形で、小学校と中学校、兄弟姉妹が一緒ですから、お父さんお母さん一緒ですから、9年間の中で、9年間通してもっと取り組みをしていくことに対して、そこにプラスで一貫教育をしていく。例えば理科ですね。今緑台中学校が9クラスです。理科で例えると、2年生と3年生の理科は中学校の担当が持って、1年生の理科と、小学校の授業は、専門的な先生が、持つわけです。そういう形で、今取り組んでいる、出前授業的部活動とか交流支援、それと1年間の計画で、理科とか英語など、そういった取り組みを専門の、中学校の先生が、当然小学校の9年間の研究をして臨むわけですから、より教育活動としての充実を図れると思うんです。そして街づくりに対しては、さっきおっしゃったように、どちらもいい点があると、陽明小校区の方の、緑中と陽明小の方で、地域の教育・文化、そこをしっかりと培って、こちらの方はもっと、こちらの方に体育館もあって、社会性への関係、健康スポーツ面でも、そういう面でも、実際に将来的にはここも考えられるでしょうし、福祉改善の事も必要になってくるかもしれません。地域の町おこしの拠点として、地域の拠点としてこの施設を使うことも出来ると思うんです。そういう形で、グリーンハイツ全体の中で生活と、教育学びの像として、これから先を考えた時に、どちらがいいかということも含めて、見極めていく方向でいいんじゃないかと思います。

今日の説明会は、結局まちづくりが基礎にあって、こっちは、今お答えいただいたように、社会的福祉的な施設を作りたいからまちづくりはこう考えています、で、向こうは教育エリアで考えているので、学校統合するなら教育エリアの方にというのがあるので、統合する際は陽明小に行くっていうのであれば、今日の説明会ではその説明が出てこないと、おかしいと思うんですよね。人数とか小中一貫教育とかあんまり関係なくて、川西市の、多田グリーンハイツまちづくりとして、そういうふうに向かっていますという説明である、今の、そういう風に聞こえてしまうんですけど、小学校統合するのは、まちづくりに関係するんじゃないんですか。

まちづくりの視点から、跡地のことを考える必要はあるかなと思っています。ただ、ここで一番大事なものは、子どもはやっぱり子どもの教育上の環境として考えております。まあちょっと、まちづくりの視点で、子どももまだ、一番は、お話しさせて頂いたように子どもが、

それから環境、教育として勉強していく活動していく中で、一貫教育という視点が第一にあるという理解があります。

< 地域の方 >

緑台小学校は息子が卒業しています。基本的に、今はやはり人口減少。何を我々が一番大事にせないかんかというのは、私は子育ての環境を作っていくことが、行政にとっても我々にとっても、ものすごい大事な課題だと思っています。このグリーンハイツに、やはり入ってきて、自分の近くに小学校があるというのが第一条件なんです。子どもがね、何分ぐらいで小学校着けるか。これは緑台の方たちは、本当に大切なんです。私は朝、本当に寒い日もね、あるいは夏でも、みなさん早くから、小学生を、交差点を歩く姿を見守ってくれています。本当に素晴らしいことやって頂いているなど。我々が一番大事にしなければならないのは、子どもたちですよ。日本の課題ですよ。

ところが、先ほどからの説明は、減少していく、だから学校統合が必要と。根本的に、本当にそうかなと。私は、離島をまわってるんですけど、離島はね、2~3人で小学校を作ってるんですよ。

今、単学級と言われましたけれども、それが理想なんです。1学年1学級最高ですよ。複式学級でやってる学校がいかに多いか。ある意味、今このグリーンハイツの適正規模ですよ、この大きさは、何ら統合すべきじゃないと思いますね。といいますのは、もし、単に地図を見て2.何キロと言われますけど、その間は、人々が住むだけの場所、ずーっと登りですよ。子どもたちが、暑い夏、寒い冬、ものすごい吹雪の中、その中で、40分50分かけて、登校しなければならないというような状況を作るとというのが、基本的に行政が大間違いだと思います。子どもの毎日の通学は本当に大事なことで、不動産屋に聞いたら、ここは小学校が近いですよというのは第一に出てくることです。市は、おそらく皆さんも、より素晴らしい街を作ると、より子どもたちを育ていく環境をより良くするという立場は共通だと思います。だけど、これだけのすごい疑義に学校廃校ですよって、1つ無くして新しい学校に40分以上かけて通う、今ね、みなさんがどれほど子どもたちが、宝やと思っているか、ということです。今、日本は、残念ながらOECDの諸国の中で、教育費にける額は、日本は先進国の中で一番低い中に入っているんです。いま、単学級は30人とおっしゃいましたけど、先進国の学校ずーっと見てください。25人とか20人、常識ですよ。この街は1万5千人近くの方が住んでいて、2つの小学校を維持していくというのは、行政の責任ですよ。少なくともこの教育環境守っていくのが教育委員会の責任です。根本的な視点が、間違っていると思います。その観点で、子どもたちを育てて、人口減少を止めるには、徹底した施設が必要なんです。だから、その根本的なことを考えて頂きたいと思います。

< 在籍 保護者 >

今の方とかぶってしまうんですけども、おそらくみなさん、やっぱり通学路とか安全性とかっていう面で、自分の子どもが心配だからってという視点で、この合併について反対とか、疑問を持っておられる保護者も非常に多いと思うんです。そう考えると、その不信感とかは子どもにもあると思うんです。通学路が遠くなり、毎日40分以上かけて、重い荷物を持って雨の中を通う。何で統合するんだってという不信感を、保護者も子どもも持ったまま、統合を進めた場合、教職員とか教育委

員さんに対する保護者、子どもに対する信頼っていうのが揺らぐんじゃないかと思います。揺らいだまま、統合して、問題が起こった場合、問題が解決できるのかっていう不安があります。あともうひとつ、小中一貫とかいろんな話を出してもうまくいくのかっていう、むしろ総崩れになるんじゃないかという不安があります。子どもの教師に対する信頼とか親の信頼は本当に一番大事と思うので、それを一番大切にして、教育行政をやって欲しいなと思っています。私がお聞きしたいのは、今この状態でいろんなご意見が出てるんですけども、この中で教育委員会の人、保護者とか生徒の信頼を得ているというふうにお考えなのかどうか。一番知りたいんですけども、どうお考えなんでしょうか。

最初の方のご意見の中にもあったかと思いますがけれども、地域によっては、複式学級であるとか、非常に少ないところで学校教育をやっている現状はあります。それは十分認識しております。ただ1つの考え方として、単学級というのは、もちろんメリットもありますが、リスクを背負った学級経営だということも認識しております。今の子どもの時代、子どもたち同士の関係も非常に難しくなってきましたし、また、様々なトラブルも出てきています。そういった中で、子どもたちの関係、それは私たち大人の関係でもあるんですが、そういったものの関係というのは、一昔前とはちょっと違ったものになっているかなと考えております。そうした場合に、「単学級」、例えば6年間単学級であるということは、もし万が一そういうトラブルがあったときに、クラス替えがないというのは非常に厳しい状態じゃないかなと思っています。それと子どもを理解したり、チャンネルというか窓口があるやり方をしたいなと思っています。もちろん1対1の関係で、トラブルを解決するということが、ご意見を頂いたことを否定はしませんけれども、もし万が一それがこけた場合、ネックかなと。

いろんな教職員はいろんなところから子どもたちを理解したり支援して、子どもたちもそういうところで信号を出せるという環境というのは、単学級より安定した経営になるんじゃないかと思っております。ただ、おっしゃられた通り、この先減ってきた時に、どうしていくんだと、これについては考えていく必要があるかだと思います。同じように統合していくのかと、先ほどもありましたけど、私は、そこは1回また考えていかなければならないのではないかと。コミュニティの中にまったく小学校も中学校もない状態はどうなんだというところ。例えばコミュニティをまたいで、小学校を統合していくのか、中学校を統合していくのか。それと、また違う方法を考えていくのかということについては一定の方向性が必要かなと考えております。今回、統合になったといえ、基本的には1つのコミュニティで、通えないほど遠いところではないと、いうところを言うと、単学級は出来るだけ避けるべきではないかなというのが私たちの考えでございます。

通学距離については確かに距離が、今より長くなるというのは、考えております。申し上げにくいことですが、先ほど言いました基準の4キロはクリアしています。ただ数字だけのことで、それだけのものではないと認識していますが、そういう基準ではありました。それと、他の小学校においては、これより長い距離を通学されている現状もございます。そういうことも考えると、一つの校区として考えるのには無理はないかと思っております。ただ、先ほど説明させて頂きましたように、統合による影響があるということは認識

していますので、通学支援、低学年に限って、年度区切ってではありますけども、通学の支援を考えております。このことは市長部局とも協議させていただいておりますので、具体的なことが明らかになればまたお知らせしたいと考えております。もちろん私どもは、教育に携わっておりますので、子どもたちの未来・将来を考えており、そこに予算配分を確保出来るよう努力は日々やっているところでございます。全体として、市全体・国全体含めてですが非常に予算、税収が厳しい状況になっているのは事実であるかなど。文科省の方は35人学級を最終的には中学校3年生まで広げると、言っておりましたけれども、財務省の方は40人学級に戻す、というようなことです。そういった中、35人学級ということで、国の方、県の方には要望させて頂いております。厳しい状況ではあるけれども、今回の決断になったということでございます。信頼感が残るのかどうかについては私どもも、それを得るための努力はしていますが、すぐにできていくというものではないと思います。ただ、市長部局や教育委員会内部でも決めたことを、できるだけ定期的にお知らせさせて頂きたいというのが私たちの考えです。以上です。

< 在籍 保護者 >

在校生の保護者です。小学校の単学級をさけるために統合というお話は、分かります。小中の一貫を進めるということも、一般論としては分かります。ただ、中学校、緑中の先生方をみていると、非常に生徒数が少ない中で、教師が少ないということで、分掌、教材研究、いろんな形ですごく遅くまで残って、負担がかなり大きい状況になっています。この中で、小学校と、小中連携のプラスアルファの業務が増えると、さらに会議も打ち合わせも増えるような形。それに関して、中学校の教員の増員であるとかを考えておられるのかどうか。今の状況では決して質の高い小中連携の一貫の教育を期待することは難しいと思います。そう考えると、小学校は小学校だけで十分でないかと。

であればわざわざ陽明小学校に持っていく必要はないのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

教員が多忙だということで、先ほどの資料にも、教職員が非常に多忙であり打ち合わせの時間がない、ということが課題として挙げられているところでございます。私どもも、今まで連携したというか、一貫してやってきていない教職員ですので、今後進めていく中で、いったんはその打ち合わせ時間が多くなるとは考えております。ただ、それは一過性のものであって、恒常的にずっと続くものではなくて、一つスタイルが出来てくると、会議の数も減ってくると考えております。今まである意味独立性を持ってそれぞれやっていたものが、1つになるということもあるので、会議等の時間はいったんは増えるけれども、将来的には軽減されるものと思っています。

それと、教職員の人数が減って忙しくなっているからこそ、逆に、教職員のチームとして、小中の教育の母体となって、教職員の人数を増やしていくということで、逆に流れに乗った時には、研修とかそういうものを軽減させていくと考えております。今の職員のままで、研修とか出張とかを考えていきますと、やはり、厳しい状況は続いていくという、そういった

意味で小中で協力してやっていくというのは大事ななというふうに。

ご指摘の通り、小中一貫校進んでいく中で、やはり一貫校で、多忙感、そういうものは、増える可能性はあります。そういった時の教職員の配慮については国レベルでも少し、施策を検討していくということを聞いています。その状況を見ながら、市としても、また県としてもそういう施策があるということで、その辺りの情報を収集しながら、出来るだけその多忙感を減らせるように考えております。教育長に替わります。

小中一貫教育について。これは9年間の中で、その繋ぎの6年と中1の関係の中ですね、両者がしっかり研究して、専門の先生方、例えば小学校に行ってその教科について教えに行くと。5、6年生を、一般の小学校の先生よりも、より優れた形で外国語教育をですね、5、6年生に提供して、しっかりと研究をして、そういった関係づくりをしていくということの中で、子どもたち兄弟姉妹が9年間同じ所で育っていくわけです。ですから、今やっている連携教育とかなり似た形で充実していくというところがあります。そういう面では、近いところでしといたほうが、子ども達も今のように、今回も緑中の方に、陽明と緑台の子どもたちが行って、授業を体験します、そういったこともあります。逆に先生方が小学校へ行って、目の前の子どもたちに、理科とか英語とか、算数の授業をする。一年間の計画の中できちっとやっていくということが出来る。もちろん研修は必要です。ですが、小学校と中学校の先生方の共同の研修とか、職員の調整というのは、大変なことも出てきます。それは、軌道に乗ればうまく行くことになりますから、是非、進めていきたいなと思っております。

< 在籍 保護者 >

在校生の保護者です。質問が2点ありまして、先ほどからお話しされている小中一貫教育に関してなんですが、これは、小中一貫ということなんで、お友達とか、そういうのが変わらず、9年間過ごすという、メリットもあると思うんですが、担任制から教科制という、変わらないメンバーの中で推移していく、抵抗がない感じで成長していくというのは少し良い事だと思うんですが、子どもを1人の保護者としてみた場合、子どもが小・中終わって、高校・大学また社会に出た時に、もっと違う環境下で、いろんなことに対応していかないといけない柔軟性というのは、もっとこう小さいときに育てていく必要があると思うんですね。そういうところが、小中一貫教育でどのように考えられているのかということがすごく気になっています。私が育ってきた環境では、そういう小中一貫は全然なかったものなので、それでも社会に出てやっていけるので、その一貫教育は今の子を、果たしてこう精神的に弱くしてしまうんじゃないかって思う所は少しあります。

もう1点は、川西市の教育委員会の方が、グリーンハイツと、清和台と、大和の地域で、高齢者の方の割合が高く、児童数が減っているっておっしゃってましたけど、それらの30年代40年代の住宅地の開発に伴って、買われて、購入されてきた方が今高齢になられて、その子どもたちが今保護者として、という年代になっていると思うんですね。もともと、多田とか、久代とか、そういうところにも、川西の住民であられた人たちの、なんていうんですか、年齢のグループ層と新しく住宅地を購入したところのグループ層っていうのは、当然違ってくると思うんですね。資料にもあ

ったと思うんですけど、子どもの人数が減ってくるっていうのは、全国的に子どもが減ってきているし、今後も子どもが減っていくだろうという推測がありましたけれど、必ずしもそうじゃないのかなとも思うので、一回小学校を統合してしまうと、跡地の問題とか、新たに人数が増えた時の対応を考えるのは今後難しいと思うので、基本的には統合には反対です。

< 在籍・未就学児 保護者 >

今話を聞いていると、子どものために本当にやっているのか。小中一貫がやりたいたけじゃないのかなとどうしても思っています。緑中も陽明も、緑台もトップクラスの成績を持っているから今人気があるわけです。でもそこまでして、小中一貫教育しないといけないのか。例えば距離の件に関しても、他の川西の校区の人は、4キロとか歩いてるから、2キロくらい平均的で、とおっしゃいましたが、結局は、他と比べたら別に問題ないとしたら、他の校区は、小中一貫をしないですね。

清和台も連携です。例えば東谷にしても連携です。どこも連携なんだから、平等にということなら、ここも連携で良いと思います。一貫したいからやってるとしか思えないんです。なぜ緑台か、緑台がつぶされるのという話も、こっちの方が古いからですと。校舎の面積が6,653㎡で緑台の方が広がったです。これは最初の検討の段階で分かってるはずですよ。

結局、少ないからくっつけよ、小中一貫したいというふうな形で、子どもの事を考えてやっているとは思えないんです。実際グリーンハイツはご高齢の方が多くいます。小中の子どもの登校、申し訳ないです、僕は、周囲の方にあんまり関係ないと思うんですが、出て来てくれてるんです。ここは、お年寄りとか子どもが、皆さんが、一体になっているんです。協力的で、会話してるんです。

そんなことを教育委員会の方分かっていますか。机の上でこうやって。だから全然心に響けへんです。実際少子化になったらみんな1校になるのは仕方がないかなとどっかで思ってるはずですよ。

小中一貫というが良いというものもあるんかもしれない。資料も全部後付で、小中一貫教育の、4ページの3、箕面市であるとか、吹田市であるとか、これを出されると川西市もなんとかやりたいということにしか思えない。ただ、川西市で小中一貫校できるのはここしかない、陽明と緑中しかない。これが前提で動いてるようにしか思えない。陽明の人も緑台の人も、そんなに早くから一貫して欲しいと思ってないです。在校生の親御さんは、その学校で卒業して欲しいと思ってるんです。だから、最短でも6年は待ってほしい。今の1年生はそのまま卒業して欲しい。予算の件があつてと、それは手前にしようと思つたら、その通りです。でも親御さんは嫌なんです。6年間はそのままにして欲しい。それは陽明になろうが緑小になろうが一緒なんです。だけど、予算があるから検討中としかできませんというのは、30年度で進めているからです。誰も統合して欲しいと思っていないんです。前も言いました、小中一貫教育をするのであれば、サマーカーニバルの時のループバスを、ずーっと走らせることによって、小学校、小学生、中学生、あとは高齢者、高齢者の方乗せましょう。いつでも無料バスに乗れますよと、いう形になれば、お年寄りの方も喜ぶし、小学生も喜ぶ。それでさらに小中一貫でやりますというふうな形をアピールすれば、当然教育の興味のある方であれば、ここを買おうとします。グリーンハイツに若い世代が入ってくる可能性が出てくるんです。そんなこと考えたことありますか。30年からなんてもうすぐなんですよ。実際やるのは仕方がないと思っています。ただ、29年ですか、陽明は1クラス、単学級になってます。それで6年間続けるのがどうだというのであれば、例えば、特別な措置として、少し人数少ないで

すけど、2クラスにして、小学校を卒業してから統合する予定でいますと。そのときには、僕はもうスクールバスが通ってると思っているんで、ここでスクールバスにお年寄りが乗れるものを作って欲しい。ここは安全で、誰もが安心して暮らせるところなんですというふうにして頂きたい。急いでやる必要はないじゃないか。その間に単学級になるところは特別措置で、35人、40人で2クラスになるんやったら1クラス20人、35人でも17と18。2人か3人しか変わらないはずなんですよ。先生の問題は、あなた方の力ですよ。特別措置としてこうしてくださいと交渉してくるのはあなたたちの力やと思うんですよ。単学級を、小中一貫のためにやろうとするからみんな納得せえへんのですわ。子どものためならみんな納得するんです。それで、35年からやります、それまでに予算組んでこうこうします、ここを発達させようと思ってます、って言ったら、だれが反対するんですか。みんな喜んでくれます。さらに緑小の跡地に何かが出来ます言うたらみんな喜んでくれると思います。先ほど、単学級になってしまったら、もしいじめとか、何かあった時に対策が出来ませんと、単学級避ける方が今後の為ですよと言ってますけど、クラス変わったところで隣にいじめてくる子はおるわけです。誰が子どもの命救うんですか。だから、言うてることが矛盾するんです。前回の時に僕はバスを通してください、そういう準備をして、ここは教育熱心な街にします、ここは川西市で自慢できる街に、ここをアピールできる場所があれば、若い人が増えてくるはずですよ。もう一回考え直してほしいんです。陽明小にするのか、緑小にするのか、陽明小で緑小にするいうたら、向こうも反対します。向こうは向こう、こっちはこっちの意見があります。みんな納得できるような案を出して、みんなに相談してください。前回、これは決定事項ですかどうですかと確認しましたら、まだ案ですよ。その割には、もう決定になってます。本当に、自分の信用のこと考えてるんですか。統合に関しては反対賛成はないですけど、ちょっとやっぱり在校生の事とか考えて、30年ていうのをまずやめてください。そこから地域の方、お年寄りの方どうするかってことを考えて、本当に子どものことを考えて、進めてください。反対でもないし、賛成でもない。ただ、30年ていうのは反対です。

< 在籍 保護者 >

今、30年度はやめてほしいっていうご意見だったと思うんですけども、4ページの上の人数の表見せていただきますと、単学級がまずいという視点で教育委員会さん言われているんですけど、30年度で言うと、29年度の1年生34人っていうのがあります、34人っていうのがひとりふたりのことで、ちょっとした変動で2クラスになるのかなということで、今陽明小の方の6年生1学級やと思うんですけど、教育長さん言われたように成績、今、緑小も緑中も陽明小も優秀やということなんで、それがずっと続くとまずいという話で、単学級がぼろっと出たくらいやったら大丈夫ということなんかなと解釈しているんですけど、実際に32年と33年になってきて、1年生が両校とも35人をかなり下回っているということからも、30年度というのがちょっと、単学級が問題だというほどには、出ていない年ということと、もう1つは、この30年度の4年生5年生というのは、逆に合わさるとすごく大きくなっているなど、前回の資料の時に頂いて、30年度の5年生のところは、合わせて118名になるので、40人学級で3クラスぎゅうぎゅうに詰め込みになるということで、中1ギャップの緩和で、5年生からのなだらかな、ということの目的で小中一貫言われてると思うんですけども、5年生のところ、統合というイレギュラーなことが起こって、

まだ、中学1年生でみんな一緒になるという覚悟は子どもたちできていると思うんですけども、それが統合ということで、途中から一緒になるというイレギュラーな形をとって、大人数である上に、小中一貫ということで、先ほどのご説明では、当初、先生方の時間が、落ち着くまではいったん、負担が増えたり時間がとれずにバタバタするだろうというお話だったんですけど、その統合1年目に今度5年生のところ、統合2年目で5年生と6年生がすごく人数が多いクラスに、今のところ、30年見ますと、なってます、小中一貫を進めて、当初5・6年生、中1のところを重点的に中学との連携を進めていくということで、先生方もただでさえ連携で時間が取れないのに、人数も多い、また文部省の統合した結果のアンケート調査とか、ホームページですけども、そこで問題として、もめごとなど結果が出てましたんで、5・6年生という多感な、思春期に入って一番難しい時期に人数が多いところで、小中一貫でやり方が変わって、先生方もまだどうしていいか模索中ではじめるっていう、すごく無理を感じます。統合そのものも本当に妥当かっていうと、どなたかおっしゃっておられましたが、やはり全体を考えた時に、真ん中の通いやすいところにちゃんと緑台小学校っていうのがあって、引越してこられる方が安心して、若い世帯が引越してこられる環境っていうことを考えた時に、そもそも統合が本当に必要なのかが、教育長がおっしゃったように、成績がいいっていうのをなぜいじるのかなという、今の環境がいいからこそ、この少人数の成果で逆に、小学校も中学校もみなさんいい成績でこられてるんであれば、そこを変える必要はないと思いますし、少子高齢化対策としても、小学校を中心に手厚くやっていますよっていう方がグリーンハイツ全体として良いんじゃないかと思います。統合そのものについて疑問ですが、統合されるにしても、この30年度っていうのに意味がないというか、むしろ30年度の4年生5年生あたりの人数の多さで、中1ギャップの緩和というより小5ギャップがすごく生まれてしまいそうな、感じがするので、全国的な資料ばかり持たれてますが、本当にここの学校の数字というのを見て、本当に推定されているのかなと疑問に思います。前回の説明の時に、小中一貫校について他の近隣都市の視察とかおっしゃってたと思うんですが、今回の資料は前回から変わりなく、総論的なことばかりで、小中一貫について、もうちょっと、市の中では具体的な案が出てると思うんです。予算についての説明で、この1月から3月で、予算編成をして、来年度、28年度に具体的に何をしていくのかということであれば、具体的なお考えがあると思うので、ちゃんと、情報開示していただきたいと思います。

あと跡地利用の話なんですけれども、市長部局の方がメインになってきますという話ですが、前回定期的にお知らせしますということで、お知らせして頂けないよりはありがたいと思うんですけども、文部省の統合の手引きを見ると、地域保護者の了解を、みんなの同意を得てというように、文部科学省自身が言ってるので、地域にいったん戻しますと、自分たちの母校として、それを一緒に考えていけるメンバーとして、独断式じゃなくて参加型で、教育委員会はその後はもう知らないではなく、具体的に考えていくべきものではないかというふうに思います。その辺のところの今のお考えを教えてください。お願いします。

一番最初の方が言われているのは、小中一貫にすることで、閉鎖的になるんじゃないかという内容のご質問だと思ってます。1つの考え方として、昔とは違いまして、1学年あたりのクラス数は減ってきています。人間関係を考えていくときに、今までは1学年4クラスだ

ったり、中学に行くともっと、8クラスあったり、いろんなクラスがあって、その横のつながりによって人間関係を構築していた部分があると思います。ところが先ほども言いましたように子どもが少なくなっているから、1学年あたりのクラスが少なくなる傾向にあるので、その時に、人間関係をどこで作るかということを考えて、横のつながりではもう広がりがないかな難しいということで、縦のつながりを考えていこうというのが1つの考え方です。したがって、小学校6年が小学校1年、小学校5年が小学校2年というかたちの、縦の動きというのは今の小学校でもとられてると思いますが、それをさらに広げて、中学校1年と、中学2年、中学3年もそれぞれ小学生と関わりあいをしていく中で人間関係を作っていくというような、考え方です。従いまして、9年間で人間関係、9年という縦に長い形になるんですけど、人間関係を養っていく、作っていくというのが、今の考え方ということで捉えていただければと思っております。

小中一貫ありきじゃないかというようなご指摘があります。先ほどからお話しさせていただいている1つのことが、非常に少人数になると、児童生徒数が少なくなって学級数が減っていくとともに、教職員の数も減っていくといった中で、1つの母体として、教職員のチームとして、大きくしていく必要があると。それから小学校中学校の児童生徒が、人間関係を作っていくという考え方に立って小中一貫校を提示させていただいているところでございます。中学校は教科担任制でありますので、教科の人数にあったような教職員を確保するのはなかなか難しい現状でございます。そういった中で小中教えるような先生を配置するというところをやっております。今言ったことは、先ほど視察というお話がありましたが、もう一昨年ぐらいから、何校か見学に行って実際に話を聞き、課題や成果を聞きながらやらせていただいているところでございます。その中で、非常に近接で小中一貫校をやられるところがあり、そういうようなところを参考にしながら、川西、もっといえばグリーンハイツとしての小中一貫校をやれないかなということでございます。実際に小学校中学校で、今も同じ教育を小中で同じ行事をされています。それをさらに考えていながら、小学校と小学校の、今度は合同授業がやれるんじゃないかなというふうに思っています。例えば、運動会とか音楽会とかそういった行事も含めまして、一緒にやれる行事は年度継続的に進めていく必要があるんじゃないかと考えております。

それから、統合年度でございます。ご指摘のとおり、今現在在籍されている方に本当に負担をかけているということは認識しております。同時に並びに単学級になった、その年度が先送りされると、この学年の児童にとってみたら単学級である年度が非常に、3年も4年も5年もという形になり、好ましい状況ではないんじゃないかと考えております。平成29年度、確かに陽明小学校で出ておりますので、本当はそこを指摘すべきだとは思いますが、やはり準備期間等もございまして、それから31年度からもう現に出てきていますので、30年度からはじめていくのが妥当ではないかと考えております。もちろん、負担をおかけしているということで、先ほど言いましたような学校支援の方は考えていきたいと思っております。

跡地利用についてでございます。今、県費で、色んな実践的なことやられていることは私も認識しております。市長部局の方も、窓口を作って、跡地利用については検討してい

きたいなというふうに思っておりますし、そのための協議会であるとか説明会は開催したいということは聞いております。参加型でというふうに言われました、その協議をする場所にはそれぞれの地域の方、役職の方に参加して頂きながら地域でこういうふうなものを作っていきたくとか、こういうことで活用していきたくというご意見については協議していくというふうに確認しております。もちろんそこに、教育委員会の方も主体的に参加させていただきたい。教育的な観点から活用しないということではございません。先ほども言いましたように、子どもが活動できるような方法があったりとか、また地域としてなにか使える財産として考えられるということについては教育委員会としての意見もお答えさせて頂こうというふうに考えております。

< 在籍・未就学 保護者 >

前回は質問させてもらったんですけど、「こんな堂々巡り」と先ほどの方も言われてましたけど、ちょっと流されているような感覚しかないんですけど、決定やったらもう来ませんので、説明会言われてるだけで、ずっと決定事案で進めているようにしか、聞こえないですし、先ほど言われた小中一貫ってのも、どちらかという今動いてる教育に関して、私学に関しては中高一貫が進んでると思うんですね。それに対して中高一貫に、私学に取られるんやったら小中一貫を公立校が進めていきたいがために行っていることじゃないかということと、6・3制というの、結局プログラムで組んどかないと、他校からの転校生が、学校の授業に遅れが出てくるということで、そのプログラムで組み込まないといけないということで、6・3制に関しても70%が小中一貫しながら、70%以上が小中一貫での6・3制っていうのも、これもやるとこと、やれへんところがあるからそうしてるだけで、宝塚市も、もっと少ない小学生で、単学級でやってる学校も出てきていると思うんですけども、廃校することもなく小中一貫することもなく、やっているにも関わらず、川西市はそういう形で推し進めると。文科省が地域住民と保護者の方の同意が得られなかったら進めてはいけませんよと書いてるにもかかわらず進めているというの、これどうなんですかと、私個人でも川西市に確認取ってますし、決定事項じゃないだけ言って、こういう説明会では決定事項のような説明しかしませんし、30年の区切りの意味も、どの保護者も分からない。なぜ30年にせなあかんのか。川西市のこのグリーンハイツエリアに対しては、特にあの第一種低層住居専用地区やと思うんで、まして160㎡規制、大きな区割りしか出来ない規定になってますから、宝塚市から地域住民呼び込むとしても、これ以上呼び込むことが出来ないわけであって、多田小に人口が多いのは、中高層専用地域ですから、当然高層マンションが建てられます。だからそれに関してはどんなに住民呼び込みするのも、人口増やすのも、高層マンション建てるのが一番手っ取り早いと思うんですけど、ここを考えると、一低層でいくんだったら、よほどの地域の変更がない限りは、人口の増加なんか望めないわけなんですよ。で、また160㎡規制、地域、地方にかけてるものに関しても、行うことはできひんと思うので、先ほど言われたまちづくりに全然直結していないことが今行われていると思うんですね。で、また、スクールバスに対しても、スクールバスとは書かずにバスとだけ書いてあって、保護者の意見、保護者の意見って地域の方も大事やと思うんですけど、保護者の意見っていうのは全く無視したような、先ほど負担だけは我慢してくださいと言われてます

けど、質問なんですけど、教育委員会の方で住宅販売する不動産業者に、教育委員会に埋蔵物に関して確認取りに行きますよね、不動産業者に行ってますよね。その時に、この統合されるということ、不動産会社に促してたんですか。学校統合されますよ、廃校になりますよとすでに促してたんですか。どっちなんですか。

不動産業者にこちらから統合するということをしてすべての業者にご案内してません。ただホームページの方でご確認くださいということで、直接不動産業者から問い合わせあった場合はこういう判断にありますよということを示させていただいております。その時実際にお客さんにそれを伝えたかということは不動産屋さんの判断になってくるので、そこは私どもは分かりません。

分からないじゃなくて、埋蔵物と文化財に関して調べたんですよね。当然、地域住民呼び込むのは、生活の基盤築くために引越してくる訳ですから。学校へ近いということで、選んだんですね。おたくらの決めたことで、学校が遠くなる、4キロと言われても、何のためにここに引越したのかわからないし、泣き寝入りする気もないし、はっきり言いまして。まちづくりしている観点から小学校がなくなったら、その校区の土地が売れるわけないんです。住宅地や人が増えるわけないでしょう。先ほど聞いてたら小中一貫も、小中連携をより強化なものにするだけであって、あくまでも小中連携ですよ。小中一貫に関して小学校1校じゃないといけないという規定もあるわけですから、小学校2校で中学校1校で小中連携教育やっているところもありますよね。事実単学級やらじゃなくて、2校で小中一貫教育をやってもらってもいいんじゃないかと私は思います。そういうことを、保護者や地域住民とも話し合ったうえで下さなければいけないと思うのと、陽明小学校の保護者だけ、緑台小学校の保護者だけで集まらないと、意見交換をしても一方的な部分も起こるので、そういった意見の違いもあるわけですから、出てくる地域の住民の話、地域の関わっている人だけで集まる場も必要じゃないですかと私は思います。実際子どもたちが通っている保護者の意見をもっと聞いてほしいというのと、反対で、どれだけの反対票を集めてきたらいいですかと市に確認したんですけど、お答えしますだけ言われて、今日結果言うてくれてないんですよ。何名反対したら取り消してくれるんですかと。だからもっときちんと進めるんじゃないかと、今日は決定なのですかと。決定やったら30年で決定なのですかと。決定って言ったらいいいのに決定って言わないですから。じゃないと寒い中出てきてもしゃあない訳ですから、決定されていることに対して。その辺ははっきりとね、オブラートに包まずはっきり言ってもらわないと、出て来ている意味がありませんから。自分の子どもの事考えたら嫌ですけど、グリーンハイツを出てくこともせざるをえないかなと考えますし。寒い中、通わせたくないですこんな山奥で。その辺りも考えてもらわないと意味ありませんので。はっきりとしたことをきちんと話してください。遊びで住んで生活してるわけじゃないんです。またおじいちゃんおばあちゃんが迎えに行ったりしているんです。その距離が伸びるということを考えた上で、お年寄りの事考えてる、高齢者のこと考えてるという言葉を書いてください。言っていることが不透明なことばかりで、自分の身になって考えてください。自分たちの子どもがそれされたらあなたたちどう出ると思いますか。それを考えて話してください。以上です。

今、これは決定なのかということについて、今回の説明会の位置づけとしましては前回、方針を説明させて頂いて、いろいろご意見頂きました。その頂いたものについて今出来る範囲でお答えられるものを答えさせて頂いたということで、基本的な方針としてはまだ決定には至らないかなと考えております。ただ、先ほどのスケジュールが、先にあるということではないですけれども、統合踏まえて方針を決定することについては、もう一度市長部局に持ち帰って、このようなご意見があるということについては必ず、市長部局にも、報告させて頂いて、また時期を見てさせて頂く、その中で方針を決定するという形にしたいなと思っています。

地域住民・保護者から反対している意見も出ているわけで、それに対してどうしたら取りやめになるんですかと聞いているんです。それに対して検討中だと30年の話されているから、決定しているなら来ない。どっちにしても市が決めたと下ろすのは分かっているんで。トップダウン的なことを今やるんやったらやる、「決定や」言うたらいいでしょという話をしているんですよ、予算の話やなくて。

最終的には決定しないと、という流れですけど、こういったお金があるということはきちっと伝えるべきであると考えています。1回目にご質問が出て、頃合いについては市長部局に伝えてますし、必要な措置については方向性をきちっと確認した上で説明させて頂く形になっておりますんで。おっしゃられる通り、今回そういう形でご説明させて頂きました。またこういう意見頂きましたと、市長部局に上げる必要があるかなと思っております。その上で、正式に判断させていただきたいと思っています。

< 在籍 保護者 >

当初も、統合についてのアンケートは地域住民にして頂いたんでしょうか。それがまず、最初からの疑問なんですけれども。さっき住宅のことについてもおっしゃられてましたが、最初からそういう話があったんなら、立ち止まる人もいると思うんです。この話し合い自体がとてももったいない時間と言いますか、地域住民をほっといて上の方だけ話をしている感がどうしても拭えなくて、住んでいる人の意見を聞いてくれてるんでしょうかと。それがまず大前提なんです。そこを本当に教育委員会の人、川西の方は考えて頂きたいと思います。本当によろしくお願いします。

< 在籍・未就学 保護者 >

先ほどの話だと、まだ決定事項じゃないと。持ち帰って次回決定事項になるかもしれないということで、前回と比べたら偉いさんが来てるんですけど、今度、ここの市議会議員さん連れてきてもらえませんか。ここのこと一番よく分かってはるんやから。教育委員さんで説明しましたというふうに言いまして、こんな会議しました、こういう意見ありました、いうふうにやっても、変わらないと思うんです。意見で、延ばしてくれてという意見があった時に難しいというふうにおっしゃい

ましたね。連携のほうも、ほとんど連携みたいなもんなんやったら陽明小じゃなくてもかまへんでしょ。一貫でやるから緑小潰します。それで仕方ないと思いますけど、そんな早急に決める必要ないなら、期間を延ばしてください。お願いします。出た質問でいくと、やっぱり先生は人数うんぬんがあるから30年度は変えられへんとおっしゃいましたね。よその地域、東谷・清和台その他と比べて、同じように連携でいいじゃないですか。緑台小の方は、ここ校外からでも来たいと聞くように、先生方すごい先生です。良い学校なんです。申し訳ないですけど陽明小より勝ってると思います。今話を聞くと、「多分もう決まっとんねん。一応市民に説明した。」じゃああれへんねん。実際ね。だから持ち帰ります言うて持ち帰っても、ちょちょこっとしゃべってそれで終わりと思うんです。子どもになんて言ったらいいですか。なんでなくなるのって聞かれて。教育委員会の会長さんの名前を言って「こいつが潰しました」って1年生に言うとなんていいですか。2年生に言うとなんていいですか。「緑台小学校潰したのは川西市教育委員会のなんとかさんです」って言うたらいいですか。もしかしたらそれが中学生に広がって、高校生に広がってネットで回るかもしれないですけど。あなた方も潰したいわけじゃないでしょ。子どもたちのためには。みんなで話し合っただけです。なんで30年度にこだわるんですか。次、決定事項としてここでやりたいのであれば、最低限この市議会議員連れてきてください。本当は市長連れてきていただきたいですけど、地域のこと一番分かっている、何人か市議会議員さんを、連れてきてください。自分らで決定事項にしました、こんだけ会議しましたというふうな形でやって、こんな感じで、こんな質問ありました、紙で出されて、話にならないです。誰も納得しないです。それやったらこの市議会議員の方が、この代表者のその人らが、こうこうやからって言うてみんな納得してって言うんやったら納得する可能性があるかもしれないけども、30年度にこだわるんやったら小中一貫というのは、諦めて、厳選して、向こうを潰してください。向こうは反対しますよ。

それぐらい大事なことなんですよ。向こう潰したいわけじゃないし。僕らみんな向こう潰せこっち潰せと言っているわけじゃないんです。30年度にやりたいんやったら、話し合いは噛みあわへんし、こっちの方が広いし、もし人数があふれた場合こちらならグラウンドもあります、体育館もあります。いろんな一貫や何や、もっと先にやることあると思うんですよ。例えば遠足一緒に行くとか、それこそ運動会を一緒にやるとか、向こうの子とこっちの子と連携をちゃんととって仲良くして合併します、っていうふうな形であれば子どもたちはスムーズにいけます。30年度来ました、はい行きなさい。逆に何でそんなことばかり考えてるんですか。先生も連携とってません。だから30年度にこだわるなって言うてるんです。もうこの場でおっしゃってください。持ち帰ってないじゃないですか。なめんのもいい加減にしてください。地域の人、それこそ市議会議員、市議会議員の方、集めて、ここで陽明の、向こうがいいんやったら向こうで、ここでみんなで話し合っただけで、ここに来てる老人の方なんて、はっきり言って関係あらへん。でも自分らの地域のことやから来てくれてはるんです。あんたらみたいな人間とはちゃうんや。ちょっと考えてください。例えば小学校1校潰すんやったら、教育委員会の人ひとりクビにするとか、学校潰すんやったらそれぐらいしてください。そんなんやったら必死になるでしょ。本当に子どもの事を考えてください。最低限、今の小学校で卒業させてあげてください。転校させるからいいやんていう問題じゃないんです。子どもはもう入ったところで卒業したいんです。本当に子どものためにやってください。だから30年度にはこだわらんでください。こだわらんやったら小中一貫はやめてください。それを話し合っ

て、向こうをつぶすかこっちをつぶすか考えてください。それが嫌なんだったら、本当は決定事項なんです、決まってるんです。ここで言うてください。本当に子どものためにやってると思われへん。だからみんな納得せえへん。だから30年度に統合すんねやったら、こちらの地区で行くことは考えないでください。こちらの地区で言うんやったらもうちょっと地域の方、お年寄りの方、いろんな方と相談して、市の方ではやりたいと思います、そっちの方が良いという判断でやってるんだと思います。資料だって、こんなもん資料ちゃいますやん。おかしい資料ですよ。統計もとってへんでしょ。結局本気でやろうとしてへんのですよ。実際ね。だからやりたいならやりたいなら、いろんな努力をして、みんなに納得してもらって、やってください。どっちかいうたらしたくない、これをこんなふう説明すんのんも嫌々やって分かってます。できれば、あなた方の話は聞きたくない。けど、中学校めざすからこうなっている。そういう立場も分かっているつもりではいます。だけど、こっちはもっとです。子ども、防犯カメラつける言うたって、防犯カメラつけとったって、防犯カメラつけてますやんで済めへんねん。はっきり言うて。防犯カメラどうこうちゃうねん。安全に行けるようにしてほしいねん。さっき4.何キロとかいうのんでも、他のところの家買った時に、小学校2校ありますよと、承知で買ったはるんです。近くであるからここを買ったという人は、それを承知ではないんです。子どものために近くを買うてるんです。だけど仕方ないなあ思てる部分もあるんです。だからまあ、今回持ち帰って、話し合っ、次回決定事項にしたいんであれば、最低限ここに市議会議員を連れてきてください。市議会議員の方、緑台小残すように言うかもしれないですね。あなた方は陽明小残そう言うてますけど、市議会議員の方みなさん緑台小残そう言うかもしれないですね。このことよく知ってはるし。で、それがもう決定事項ですわて言うんであれば、決定事項です、すみません今言うてください。よろしくお願いします。

< 地域の方 >

この問題、小中連携とか、小中一貫が、国や県の方から市の方に指示されてきたんだろうと思いますね。それで、生徒数の少ない緑台小や陽明小を統合して、小中連携がやりやすい形を作るところが、あったんだと思うんですね。この小中連携なんていうのは、古い話ですよ。はっきり言って遅いですよ。もう何十年も前からの話で、元々、中1ギャップというところから出てきたんですね。教育委員会の皆さんはよくご存知でしょうか。あまりご存じないようにもお見受けいたしますけど。中1ギャップというのはかなり難しいですよ。同時に出てるのが小1ギャップなんですよ。大きなギャップが、出来てしまう。これは、社会構造、社会の格差生活など色々、お父さんお母さんの違い、例えば極端に言うと、学習不適合なんかね、こういう言葉がありますよね。文科省なんかで、文部科学省で、不適合やと。それで中1、学習不適合の問題ですね、これがかなり厄介で、簡単に解消できないわけですよ。小1の段階から、小2小3小4小5小6といく過程で大きくなっていくわけですね。その問題に、小中が連携しないといけない、というふうになったんですよ。それは、陽明小だけじゃなくて良いわけですよ。その、問題の解消に取り組むんだしたら、緑台小の先生と緑台中の先生たちが連携すればいいし、陽明小の先生たちと緑台中の先生たちが連携すればいいわけで、10年も20年も前からやっておかないと。今頃になって、小中連携、小中一貫なんて言葉が出てくるのは、遅いわけですよ。だから、皆さんがいろいろ発言されているこの問題は、数年なんかではね、30年まで、今まで何十年とあったわけですから。それは、生

徒数の激減があるから、という点なんでしょうけど大きな差はないですよ、数年ぐらいあろうと。5年後であらうと10年後であらうと、平成30年であらうとそんなに変わりはないです。だからそんなに急ぐことではないと思います。もともとこの問題、取り組むのが、特別遅かった。ですから、もっとしっかり、多くの人たちと、教育委員会の方たちも話をされていく必要があるんじゃないかなと思いますね。そういう意見です。

< 在籍 保護者 >

お聞きしたいんですけども、先ほどの発言とか資料の中に、学校運営ではなく、学校経営とか、なんかもう営業、ビジネスみたいな書き方されているんですけども、市教委のみなさん子どものためとおっしゃっているんですけども、ビジネスと捉えられておられるのかなと思ってんですけども、どのように思われているんですか。運「営」じゃなくて運「用」ですよ、先ほどの施設、学校の校別の「集客」ともおっしゃってんで、「収容」ですよ。集客っていうのはビジネスですよ。そこらへんどういうふうに使われているのかなと疑問なんですけども。お答えできないんですか、してもらえないんですか。言葉が良くないっていうか、そういうふうに使ってしまっても仕方がないんじゃないかなと思うんですけど。

学校の先生、私も元教師ですけども、学校の先生の言葉として学級経営ということは、そういう言葉を教育委員会の中では使う言葉ではあります。

昔は学校が休むとき休校って言ってたと思うんですけども、今休業って言いますよね。

話し言葉で使う、休校っていうのは今でも、法律でも入っています。臨時休校。それから、それとは違う、また夏休みとか、長期休業日っていうので、どちらも使うと思います。

あとですね、前回もお願いしたんですけども、子どもの意見も検討して欲しいってお伝えしているんですけど、まったく子どもの目線じゃないと思いますし、一番当事者である子どもの意見っていうのはどこで吸い上げて頂いているんですか。通うのは当事者である子どもたちなんですよ。でも子どもたちの意見は度外視ですよ。そこはどう思われますか。

まずはやっぱり、大きな、これからの学校または市の、ここの地域の見方でもありますので、やはり住んでいるおとなや私たちの意見を固めて、然るべき時期に子どもたちには趣旨を説明して、内容説明して、納得してもらえるように寄り添っていくことについて、考えていかなければならないというのは、考えております。

それは決定したってことをお伝えするってことですか。

基本的にはそういう形になると思います。

事前にアンケートはとって頂けないんですか。

基本的に子どもにアンケートをするということは考えておりません。

いったん子どもたちの声も聞かしてもらいたいんですけども。

子どもたちが、自分の学校に対して思いがあるということは重々承知しております。教師も含めて保護者も含めて、それは同じだろうとは思いますが、けれどもそれをもって、アンケートを取るとするのは特に考えておりません。

< 在籍・未就学 保護者 >

先ほど、真ん中の方がおっしゃられてたんですけど、今後、文部科学省でしたっけ、の方針の中で地域住民と保護者と協議した上で決定していくというのが指針であったと思うんですけど、それは今後どういうふうに運用されていく、先ほどおっしゃられてましたけど、反対がどれだけ集まれば覆るのかっていうのはまるっきり見えないので、説明会で、私たちの意見は言えるんですけど、決定権はそちらにあります、どこかで、まあ分かりやすく投票なのか分からないですけど、それが行われて、賛成多数なんで統合します、反対多数なんでやめます。結局、文部科学省はそのへんがうやむやで、大きな枠で、協議の上でって書いてあるんですけど、私が見てる限りここに座っておられる方ほとんど反対のように見えるんですね。それは協議ではないです。全然協議されてない状態になっていると思います。1時間2時間やっていますけど、今日話聞いて、ちょっと統合に揺らいた人は多分0なんです。それはだいぶ問題なんです。やっぱりさっきの話で、どれくらい反対があれば話が決まるって言うのは、出していただかないと協議している意味がないので、そこは示していただきたいなと思います。

それから、先輩方が面白い意見を出されて、本当にすべきだと思うんですけど、少なくなった不幸があるわけじゃないと。少なくなって良い事もあると、おっしゃられてますので、確かにこの校区は、僕らよりも先輩の方たちが毎朝ついてくれているので、監視カメラより安全。だから、それをよく考えてもらいたいと思います。

終了